



地震あんしんカルテ

我が家に設置した地震計からデータを収集・解析し、地震が発生した後の建物の健全性を評価します。

【地震発生時刻】2016年12月28日 21時38分頃 【震源地】茨城県北部 【マグニチュード】6.3 (深さ11km)

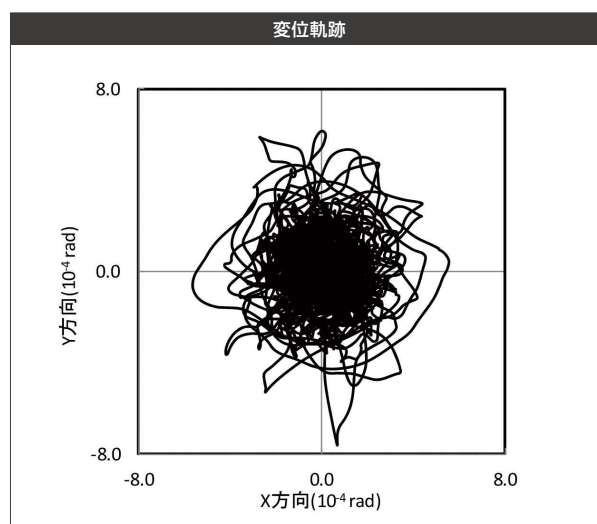
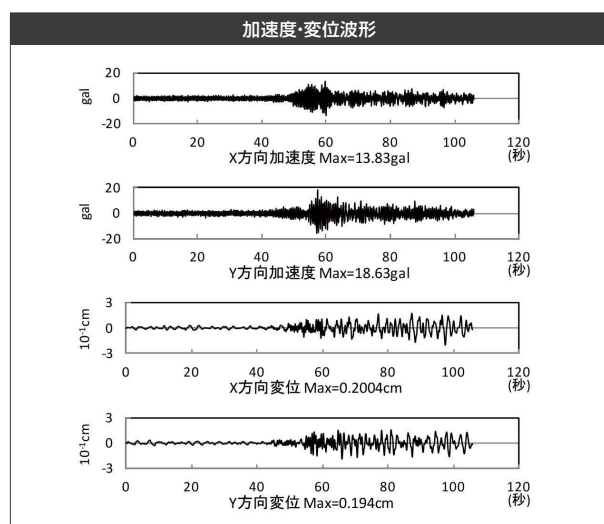
観測地点 東京都世田谷区 設置建物 コンクリート造(RC/SRC) 3階 / 14階建て

建物健全性評価: **健全** 震度: **3** 計測震度: **2.9**

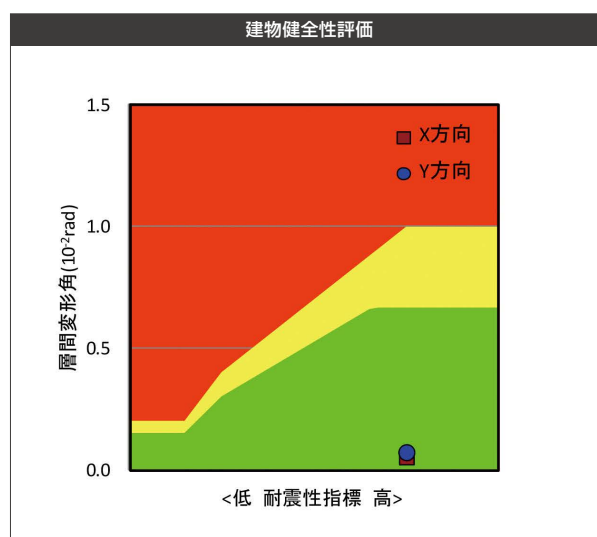
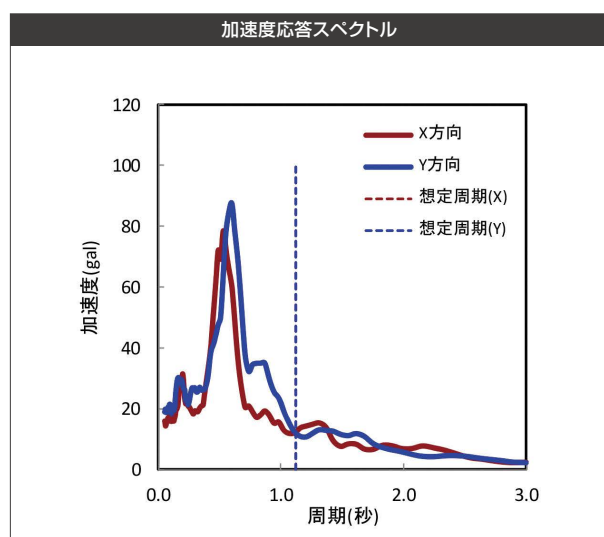
観測値から推定される固有周期は両方向とも0.5秒で、同規模の建物と比較して短めです。層間変形角は小さく、健全と判定されます。

※建物健全性評価は、計測したデータを基に独自で算出したものであり、建物の健全性の目安を示すものです。当カルテをご利用になったことにより生じるいかなる損害についても、一切責任を負いません。

1 計測結果 計測したデータから建物の揺れの大きさや軌跡がわかります。



2 解析結果 解析結果から建物の健全性がわかります。



3 地震ハザードカルテ 将来想定される地震の震度や地盤の揺れやすさなど、地震による危険度がわかります。

30年地震ハザード

今後30年間に震度6弱の揺れに見舞われる確率
54.1%【ランク:E 高め】

表層地盤増幅率

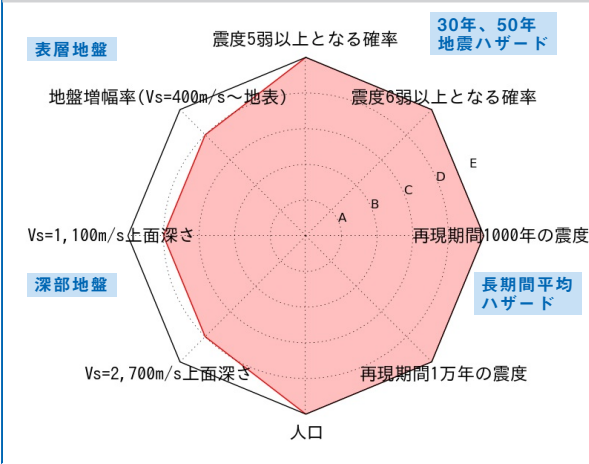
地表面近くに堆積した地層の地震時の揺れやすさ
1.61【ランク:D やや高め】



地震ハザードカルテ 2016年版

メッシュコード	中心緯度、経度	住所	標高	メッシュ内人口
観測地点記載の通り			45m	1,450~1,500人

総合評価

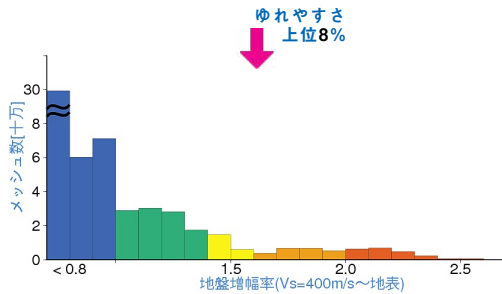


30年、50年地震ハザード

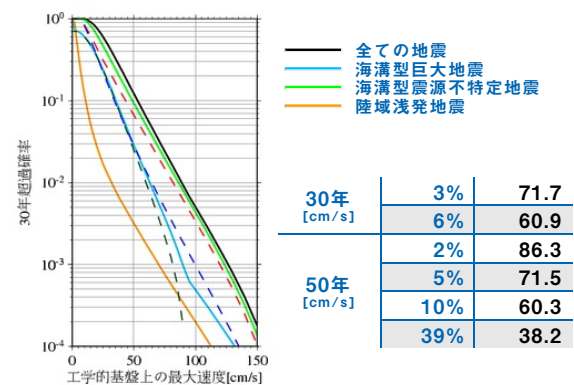
超過確率の値[%]	30年	震度5弱	99.9
		震度5強	93.9
今後30年間にある震度以上の揺れに見舞われる確率の値です。	30年	震度6弱	54.1
		震度6強	10.4
震度の値	30年	3%	6強
		6%	6強
今後30年または50年間にある値以上の確率で見舞われる震度の値です。	50年	2%	6強
		5%	6強
長期間平均ハザード	50年	10%	6強
		39%	6弱
地表面の最大速度の値[cm/s]	30年	3%	115.4
		6%	98.0
今後30年または50年間にある値以上の確率で見舞われる地表面の最大速度の値です。	50年	2%	138.8
		5%	115.1
	50年	10%	97.1
		39%	61.5

表層地盤

地盤増幅率 (Vs=400m/s~地表)	1.61
微地形区分	ローム台地
30m平均S波速度	229m/s

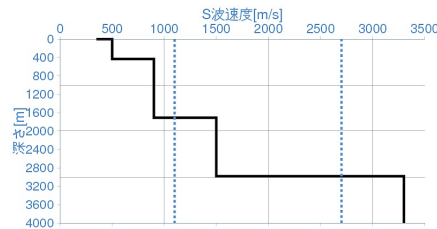


ハザードカーブと影響地震カテゴリー



深部地盤

Vs=1,100m/s上面の深さ	1,708m
Vs=2,700m/s上面の深さ	2,983m



No.	地震名	震度6弱以上の影響度[%]
1	フィリピン海プレートのプレート間及びプレート内の震源を予め特定しにくい地震	39.8
2	南海トラフの地震(南海地震・東南海地震・想定東海地震)	28.7
3	太平洋プレートのプレート間及びプレート内の震源を予め特定しにくい地震	26.9

長期間平均ハザード

震度の値	500年相当	6強
	1000年相当	6強
長期間の再現期間に対応する震度の値です。	5000年相当	7
	1万年相当	7
	5万年相当	7
	10万年相当	7